



常任委員会・閉会中の事務調査

平成21年7月21日、28日及び8月3日に社会厚生常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

一 水原郷病院民営化の進捗状況について

・平成21年7月21日・8月3日
厚生連との間で確認書が締結された5月11日以後、事務レベルでの協議は継続しているものの、労使協議が進展しないことから具体的協議に入れない状況にあるが、年度内（来年3月末）での民営化を想定した場合、本年9月から10月頃までに具体的民営化内容を詰める必要性があり、更に努力したい旨の説明でありました。

しかし、確認書の定義解釈において、市長及び関係部署間でその認識に齟齬が生じており、不信任感を助長しているさまいがあり、共通認識のもと厚生連との協議に臨むよう要望しました。
また、8月3日の委員会では、民営化に伴う郷病院職員の処遇についての方針説明がなされました。

その内容要旨は、10名程度の任用替え（市職員への採用）及び厚生連規程との給料差額の補填でありました。
しかし、任用替え基準、とりわけ採用根拠等細目が不明確な点や給料差額の補填は原資の範囲内との事であり、何れもあいまいな内容で無用の混乱を招く事も危惧され、適切な対応をするよう要望しました。

二 フィンランドプロジェクトと市の福祉施策について

・平成21年7月28日
この事業は高齢者問題を市の重要課題と位置付け、高齢者対策の先進的取り組み実績と技術的ノウハウを蓄積している同国の協力を得て「阿賀野フィンランド健康福祉プロジェクト」として市の総合計画にリーディングプロジェクトとして登録されたものです。
しかし、数年「福祉の道の駅」や「新白鳥荘」のハード面のみに焦点が当てられ論議されてきた感があります。

一方、基本理念の大きな柱であるソフト面について、自立支援ケア（車椅子を利用しない取り組み）では着実に成果をあげており、今後より確実なものになるよう施策展開を要望指摘しました。



社会厚生常任委員会

○閉会中の継続調査事項（12月定例議会まで）

- (1) 先進地視察研修の実施について
 - ・宮城県涌谷町 10月26日 町民医療福祉センター改革プランについて
 - ・岩手県藤沢町 10月27日 藤沢町民病院（平成5年開院後2年目以外、全て経常収支が黒字経営）

平成21年7月15日に産業建設常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

一 商工業振興施策の取組み状況について

阿賀野市が緊急経済対策として実施している、緊急雇用創出事業臨時特例基金事業は、24事業で本年度事業費70,213千円、新規雇用者66名となっており、ふるさと雇用再生特例基金事業では、4事業、本年度事業費で29,482千円、新規雇用者11名となっています。両事業とも、平成21年度からの3カ年事業で、事業費における人件費の割合や、全雇用者のうち新規雇用者数などの他、雇用期間については緊急雇用創出事業では6カ月未満、ふるさと雇用再生事業では1年以上等の条件があるものです。

商工観光課が地域活性化、経済危機対策臨時交付金で要望する、瓢湖展望デッキ・棧橋改修事業等について説明があり、委員からは現有施設の維持修繕のみならず、将来に繋がる事業への取り組み要望や、事業期間終了後の対応に対する質疑等がありました。

国の地域活性化生活対策臨時交付金を財源とした、市の補助金を10%のプレミアムとして、地元消費の拡大と商工業活性化を目的として市商工業振興協議会が実施した「ごずつちよ商品券」は、2億円を完売しました。この地域活性化プレミアム商品券については、今後利用実態や経済効果について十分な検証が必要でないか等の意見がありました。

平成21年7月29日、富山県黒部市役所において「富山湾・黒部峡谷・越中にかかわる観光圏整備計画」について、産業建設常任委員会の先進地研修を実施いたしました。

行政視察研修

黒部市は富山県の東部、県都富山市から約30kmに位置し、平成17年3月に黒部市と宇奈月町が合併して人口約43,000人の市です。

「観光圏整備計画」は、観光立国の実現に向けて国際競争力の高い魅力ある観光地の形成による観光旅客の来訪・滞在を促進することによる地域経済の活性化を目的に、観光業と他業種、官民の連携による一体的な取り組みと、複数の観光地の連携を促進する観光圏整備に対し国が総合的支援を行うもので、全国で30地域が国土交通大臣の認定を受けています。

滑川市、魚津市、黒部市、入善町及び朝日町の3市2町は、「にいかわ地域」として、これまでも情報発信の分野を中心に連携協力し広域的な観光振興に取り組んでいましたが、北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され、新黒部駅（仮称）の開業が平成26年度に予定されていることから、これを誘客促進の大きなチャンスとするため、地域の観光資源を活かした観光振興の指針とするため、にいかわ地域の3市2町と富山県が共同して観光圏整備計画を策定したものです。

産業建設常任委員会

計画の概要は、3km級の立山連峰から水深1kmの富山湾までの4kmの高低差のある大自然の中、山・川・海をまるごと満喫する「水の旅」をキーワードとして、海の滞在促進地区「魚津」と、山の滞在促進地区「宇奈月温泉」の両地区連携による2泊3日化の促進。観光コンテンツ事業として、体験型イベント里山古道巡りや宇奈月ダム湖での水陸両用バス運行実験。交通移動の便利向上事業として、長野宇奈月直行シャトルバス、イベントトロコ電車、氷見と黒部を結ぶ富山湾横断観光船の運行実験。観光案内・観光情報の提供事業などに取り組み、観光圏トータルの魅力を生み出し、観光客数増大と長期滞在を推進するものです。

にいかわ地域は、東海北陸自動車道の全線開通による名古屋・東京方面からの観光入込客数の増加や、北陸新幹線金沢延伸による首都圏との時間距離の短縮等を契機として、観光振興に向け大きな飛躍を遂げようとしています。都市間競争から協調の時代となり、観光振興においても面としての広域・有機的な連携が求められているものと感じました。



視察の様子

○閉会中の継続調査（12月定例議会まで）

- (1) 下水道整備事業の進捗状況について
- (2) 林道の整備状況について